

2

今日の阪神間における各鉄道会社間の競合と共存

商学部 1 年

肥田 昂大

・ 阪神間を走る鉄道路線

- ① 阪急電鉄神戸本線【大阪梅田～神戸三宮】
- ② J R 西日本東海道本線 (JR 神戸線) 【大阪～神戸】
- ③ 阪神電鉄阪神本線【大阪梅田～元町】

・ 各路線の阪神間の所有時間

- ① 阪急 **特急** 27 分
- ② J R 西日本 **新快速** 21 分
- ③ J R 西日本 **快速** 27 分
- ④ 阪神 **直通特急** 32 分

このように、速達性においては複々線と新快速がある JR が優位に立っている

・ 各路線の阪神間の運賃

- ① 阪急 320 円
- ② J R 西日本 410 円
- ③ 阪神 320 円

このように、運賃面においては私鉄各社が優位に立っている

・ 各路線の阪神間の駅数

- ① 阪急 16 駅
- ② JR 西日本 17 駅
- ③ 阪神 33 駅

このように、阪神電鉄は他者の倍以上の駅数であり、地域の利便性を高めている

・ 各路線の沿線住民の違い

阪神間において、北部の山側を走る阪急沿線には芦屋市の六麓荘や西宮市の苦楽園などといった高級住宅街が数多くあり、阪急電鉄自体のブランド政策も相まって、阪急には高級イメージが確立されている。それに対し、南部の海側を走る阪神沿線は、工場や団地が多く、阪神は庶民派イメージがある。その中間を走る J R は、双方のいいとこ取り、あるいは協会の役割を果たしている

・まとめ

今日の阪神間の鉄道において、阪急、J R、阪神の3社は熾烈な競争関係のなかで、安さと速達性のバランスとブランドの阪急、速達性のJ R、安さと利便性の阪神と、それぞれ異なる強みを持つことで客層の棲み分けが行われることで、共存を可能にしている。